

PDCAチェックシート

実施年度	令和 7 年度		
事務事業名	観光推進事業		
	担 当 課 名	地域創生課	
【Plan】計画	【Do】実施・実行	【Check】点検・評価	【Action】処置・改善
■目的 観光基本計画に基づく各種観光振興事業を実施することにより交流人口を拡大し、地域経済の活性化へとつなげる。 また、地域活性化起業人制度を活用し観光推進体制の強化を図る。 ■成果指標(アウトカム・KPI) ※ 【目標値】 令和8年度末時点で ○市内観光施設入込客 年間100万人 【達成値(R7実績値)】 ○市内観光施設入込客 年間894,134人(R06 919,318人)	■具体的取組 瀬戸内国際芸術祭の開催。 観光パンフレットやマップの作成、SNSなどへの広告掲載、パンフレット類の設置場所の拡大、看板作成設置。 市観光協会や市瀬戸内国際芸術祭実行委員会などへの各種団体補助金・負担金の交付。地域活性化起業人制度の活用による観光促進。 ■インプット(投入金額等) 事業費等 観光一般費 93,575千円 ○パンフレット等印刷 4,233千円 ○広告 1,073千円 ○魅力発信事業委託料 6,702千円 ○観光PRコーナー使用料 264千円 ○市観光協会補助金 24,018千円 市瀬戸内国際芸術祭実行委員会補助金 ほか各種団体負担金・補助金 31,605千円 ○地域活性化起業人負担金 11,810千円 ○その他 17,705千円 ■アウトプット(数量等) 実施回数等 ○パンフレット等印刷 漫遊印刷 11,000部 ○SNS等への広告掲載 3回 ○観光PRコーナー使用料 (津田の松原SA上り) ○市観光協会補助金 市瀬戸内国際芸術祭実行委員会 ほか負担金・補助金 ○地域活性化起業人によるPR活動	■成果指標の具体的な検証結果 (インプット・アウトプットに対するアウトカムの達成状況はどうか、また、達成できていない場合の原因は何なのか等の検証結果を具体的に記載) 瀬戸内国際芸術祭2025夏会期の会場となり、同会期中に34,690人の来場があった。夏会期終了後も毎週土日祝日を中心とした公開を続け、地域の魅力発信やにぎわいの創出を実現した。同芸術祭については、観光関連事業者や住民団体が組織する市瀬戸内国際芸術祭実行委員会を結成して取り組んだことで、関係者の連携が深まり、シビックプライドの醸成や地域のさらなる一体感が生まれた。 市内観光施設入込客数は目標未達成のうえ、前年度比で減少となった。施設別では、讃州井筒屋敷において減少している。芸術祭の開催年は、「会期中に観光客が極端に急増し、その前後や中間の月が落ち込む」という傾向があり、讃州井筒屋敷においてもこの傾向に合致している。 市観光協会との連携や東讃エリア観光振興事業(さぬき市及び木田郡三木町)として観光パンフレットの発行や県外などでPRイベントを実施し、観光客誘致を進めた。 市観光協会においては、スタンプラリーやフォトコンテストを実施し、周遊型観光やあらたな魅力の発見にも取り組んだ。	■検証結果を受けての具体的な対応 大阪・関西万博と瀬戸内国際芸術祭への取組を中心に、さらなるにぎわいの創出や誘客面で一定の効果があつた。2026年以降にもつなげる観光政策を東かがわ地域経営機構をはじめ、東讃エリアやASAなどの広域連携を活用して進める。 讃州井筒屋敷において、芸術祭の開催年は、「会期中に観光客が極端に急増し、その前後や中間の月が落ち込む」という傾向があつたので、芸術祭後も公開している瀬戸芸関係の作品の周知をさらに強め、観光拠点施設である讃州井筒屋敷や引田エリアの集客に力を入れ、年間を通じた平均化を図る。 旅行者の受入体制強化を図り、さらなる市の魅力度アップや観光資源の磨き上げに繋げたい。 ■評価 現状維持

※KPI … 重要業績評価指標。Key Performance Indicatorの略。アウトカムの達成度を具体的に示す指標(数値)をいう。